

かんしょのヒルガオハモグリガ（新寄主）

令和6年9月、道内の露地かんしょほ場において、葉に斑状潜孔を伴う虫害が確認された。葉肉内部には体長8mm程度の幼虫が確認され、九州大学の広渡博士へ同定依頼した結果、ヒルガオハモグリガ *Bedellia somnulentella* (Zeller) と判明した。

本種の1～2齢幼虫はヒルガオ科植物の葉に線状の潜孔を作り、3齢になると葉外に脱出して他の場所に淡褐色半透明の斑状潜孔を作る。幼虫は裏面から葉内に侵入し、糸状の糞を葉外に排出する。摂食時以外は、葉裏に張った糸上で静止している。繭は作らず、蛹は葉裏に張った糸に尾突起をかけてぶら下がる。成虫は体長6.6～7.5mmで、前翅は茶褐色で細長く、後翅は被針形で長い縁毛を持つ。

（中央農試）



ヒルガオハモグリガ幼虫（中央農試 佐藤 原図）